

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信 やまがた No.36

巻頭言

山形県介護支援専門員協会様へのメッセージ

(日本介護支援専門員協会 山形県支部)

～東北ブロック研修会・会議を経て～

一般社団法人 日本介護支援専門員協会 副会長 濱田 和則

日本介護支援専門員協会では東北ブロック担当理事を拝命いたしております、濱田 和則と申します。会員の皆様、また、山形県介護支援専門員協会(日本介護支援専門員協会 山形県支部)役職員の皆様には平素より大変お世話になっており、この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、日本介護支援専門員協会では会員の皆様による地域活動が重要と考えており、当協会においても質の向上のための研修会等を企画いたしますが、各ブロックにおきまして大会や研修会、また、会議等を開催いただき、当協会役員も同席いたしますことで、ご意見を伺ったり、地域の実情についても意見交換させていただいております。なお、これにつきましては、各ブロック単位で日本介護支援専門員協会のブロック理事を選出いただくことになっており、今年度は貴会(日本介護支援専門員協会 山形県支部)より選出いただいております。ちなみに前回は、福島県介護支援専門員協会がご担当で、私の記憶では仙台市において、2019(令和元)年度東北ブロック会議が開催されたと記憶しております。当時は、居宅介護支援費における利用者負担導入についての厳しい議論が続く中で、経過説明を行い、意見交換いたしました。また、当該年度は事業の関係でブロック大会・研修会の開催は見送られたと聞いております。

その後、しばらくして新型コロナウイルスの発生・まん

延が起り、特に昨年度は対面を要するほぼ全ての公的会議や研修会等が中止されました。「次年度こそは」とご担当の福島県介護支援専門員協会様におかれましても企画を検討いただいておりますが、あいにくそのまま交代となり、貴会にご担当いただいております。今回ご担当が交代されるにあたり、まずは会員の皆様には何とかブロック大会または研修会の開催をお願いいたしましたところ、先般オンラインにて開催いただき、担当役員の私といたしましては感謝いたす次第です。

実はこれまで東北ブロック会議開催でご相談すると「何県での開催がご都合がいいですか?」と伺ったことが何度かあります。そうするといつも「東京」というお返事をいただいております。もちろん、しかし、旅費や会場の問題もあり、また、基本はブロック内で開催いただいておりますので、後泊が必要になったりと、頻繁に開催は困難なことも少なくありませんでした。しかし、今般、はじめてオンライン開催いただき、激論が交わされると(貴ブロックは論客が多く?)2時間という時間はあっという間に過ぎ去り、まだ話し足りなさそうな参加者の方もあったように見受けられました。開催にご尽力いただきました、高橋会長様、佐藤副会長(日本協会東北ブロック理事)様に改めて感謝申しあげたく存じます。今後の連携もお願いいたしまして、拙稿とさせていただきます。ありがとうございました。

巻頭言 山形県介護支援専門員協会様へのメッセージ	
一般社団法人 日本介護支援専門員協会	
副会長 濱田 和則	1
理事会報告	2
委員会報告《専門職連携委員会》	4

地区支部報告	5
事務所移転のお知らせ	7
わんコラム	7
各専門職から(Professional Comennt)	8
編集後記	8

理事会報告

第54回 理事会(1月)

日時 令和4年1月15日(土)午後2時から3時

形式 Zoomによるオンライン

参加者 高橋(則) 高橋(英) 三浦 鈴木 荒井(晋)
安藤 佐藤(郁) 山蔭 村上 沼澤
荒井(勝) 西田 門脇 大内 伊藤(喜)
齋藤 伊藤 海藤 星川 菅原 佐藤(知)

【会員サポート】

前回理事会以降、相談事例なし。

【総務】

実務・更新・再研修受講者に入会案内送付予定。

実務124名・更新・再研修173名。

【財務】東北ブロック研修会をサポート。

1. 各地支部報告

【山形】12/9役員会。3/4予定のスキルアップセミナーは形態・時期の再検討。

【村山】1/18西村山医師会主治医研修会参加予定。

【庄内】1/12第51回研修会。講師後藤佳苗先生。50名弱の参加者あり。

【最上】12/17事例検討型研修会「在宅での看取り」。金山会場とオンライン連携。60名超えの参加。

1/6役員会。2/22高橋瑞穂氏招き「NST」について。41名参加。

【置賜】12/18研修会「在宅での看取りについて」。32名の参加。

2. 各委員会報告

【専門職種連携】

全4回の研修会1/18から。1回目21名参加予定。会費700円に変更。

【講師・ファシリテーター】

研修会終了。3年間の県からの受託だったが、修了者を対象にスキルアップ研修として次年度委託を受ける方向。

【オンライン】

Peatix利用開始。東北ブロック研修会では案内発送に日本アルカディアネットワーク利用。Peatixで会費納入に混乱なし。受講証明の発行方法要検討。

【施設ケアマネ】

東北ブロック研修会へ協力予定。

3. 東北ブロック研修会について

講師に日本協会常任理事坪根雅子氏。終了後東北ブロック会議開催予定。地区支部単位でサテライト会場を検討してはとの意見あり。経費はブロック研修会費用と県協会から支出。

4. 新規入会者の承認

資料の通り承認される。

5. 各専門職から

・佐藤副会長:作業療法士会2/5研修会案内。
・安藤理事:1/18専門職種連携委員会での研修会の内容について要望受付。

6. その他

・1/27山形県高齢者・障がい者虐待防止会議
・2/10都道府県支部長会議
・法定研修審査委員会へ菅原理事を当会から推薦
・事務所について:二人体制での勤務では手狭になっている。移転検討が承認される。

第55回 理事会 (3月)

日時 令和4年3月26日(土)午後2時から3時

形式 Zoomによるオンライン

参加者 高橋(則) 三浦 鈴木 荒井(晋) 安藤
佐藤(郁) 山蔭 村上 沼澤 荒井 西田
大内 門脇 齋藤 海藤 星川 青木
鹿野 阿部 高橋(秀) 菅野 佐々木
峯田 佐藤(知)

1. 各地支部報告

【山形】3/4スキルアップセミナー

【最上】2/22第2回研修会。参加支部役員のコロナウイルス感染者について報告。濃厚接触者はなし。

2. 各委員会報告

【専門職種連携】

3回の研修会を修了。

【講師・ファシリテーター養成】

3か年の受託終了。ファシリ34名、講師30名の修了者。今年度の経費請求県へ請求。次年度はスキルアップ的な内容で受託予定。

【広報】

会報36号編集中。5月10日納品予定。次年度から印刷経費値上げの見積。

【施設ケアマネ】

東北ブロック研修会運営協力。

【会員サポート】

事務局への電話での相談あり。HPでの相談なし。

【総務】

実務研修受講者への入会案内配布。

【財務】

現残高の報告。前期期末残高より減少。事務所移転、会員の減少など影響あり。

3. 事務所移転について

現状の報告。複合機納品日調整中。

4. 東北ブロック研修会・会議

研修会・会議の報告。収支は日本協会からの運営補助もあり、+収支となる。

5. 新規入会者の承認について

資料の通り1名の入会者が承認される。

6. 令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画・予算、総会について

総会までのスケジュール確認。開催形式の検討。ハイブリッド形式とし、参集会場は1か所にて対応となる。

7. 文書取り扱い規定について

今回の事務所移転につき、処分できる文書関係も見られる。規定の作成を検討する。

8. 理事会議事録のメール承認について

定款上「記名押印」が必要。あらためて検討要。

9. 各専門職から

・公益社団法人認知症の人と家族の会より、11月6日「全国研究集会」への協力依頼。

・山形県言語聴覚士会より、全市町村への言語聴覚士配置を目指している。

10. その他

会議への派遣状況、令和4年度の「委員派遣」への推薦状況の報告あり。

委員会報告

専門職連携委員会

専門職種連携委員会では予定通り、Zoomによるオンライン研修会を行いました。

●実施状況・参加者数報告

- 令和4年1月18日 多職種連携を重視した訪問歯科診療 歯科医師・歯科衛生士 参加者 20名
- 令和4年2月26日 実際にケアマネさんから受けた相談報告 ～訪問看護・薬剤師～ 参加者 29名
- 令和4年3月 5日 作業療法士・理学療法士とケアマネジャーとの連携について 参加者 27名
- 令和4年4月25日 言語聴覚士の仕事について

参加者アンケート結果

歯科治療を進めていく際に把握しておかなければならない情報(病気や服薬状況)がある事を知りました。単に歯科受診を勧めていくだけではなく、コミュニケーション力を高め、確認や連携の大切さを学ぶことができました。

...

口の健康を保つことは全身の健康を保つために必要な事であることを再認識できました。入れ歯が汚れている方もおり、入れ歯の清潔を保てるよう、もう少し積極的に働きかけていかなければと感じました。

...

薬の管理について、今後薬剤師さんに相談するのに抵抗感がなくなりました。

...

リハビリの修了時期や、利用者への説明の仕方等、自分自身も悩み所だったので、参考になりました。

作業療法 理学療法について詳しく分かりやすく聞くことができて良かった。

...

Planとdoの違いだけ、目指す目標は同一。とても心に残りました。

...

私たちの仕事は改めて利用者が障害など、後遺症が残っても自分らしく生きていくことを支える専門職種であることを学ぶ事が出来ました。仲間作りは本当に大切な宝物だと思いました。

...

職種の役割の理解と連携の大切さを再認識させていただきました。

...

OT、PTの方と一緒に仕事をする機会がなかったので、今日の研修で距離が縮まったように思います。今後は、リハ=栄養についてコラボできたら素晴らしいと思います。特養では、まだまだSTやOTの採用に理解がないように思います。この研修を聞いて、とても必要性を感じました。是非、働きかけ等検討していただければ幸いです。

専門職からの意見等を直接聞くことができ、ケアマネとしての視点との違いにも気付くことができました。

...

終末期にもリハビリテーションを！で、「リハビリが家族にとって、共通の話題を持つことが出来た、一緒に取り組めるものができた」と聞いて、終末期のリハビリが家族にも影響を与えることに気づかされました。

...

リハ職とこれまで以上に連携していきたいと思いました。また、終末の時も最後まで楽しみをもってもらえるなどリハビリの効果が理解出来ました。

今後の研修会への要望と期待

多職種との連携について繰り返し研修できると良い。多職種連携で問題解決できた具体的な事例等、あれば聞きたいです。引き続き、セラピストを含む医療職との連携などをテーマに企画して頂けると幸いです。

参加者の皆さん!貴重なご意見ありがとうございました。

地区支部報告

村山地区支部

令和3年度第2回研修会に参加して

今回、河北病院感染管理認定看護師の鈴木美和氏より、「河北病院のめざす感染管理～COVID-19対応と今後の展望～」と題しての講演を拝聴し、当施設に置いて新型コロナウイルス感染症予防対策の取組を強化している中での研修であり、一語一句を逃さず施設で伝達しなければと思い参加しました。

新型コロナウイルス感染症予防対策について、基本となる対応、手洗い、手指消毒、防護具の正しい使用、ゾーニング等病院での対応、最後に鈴木氏が「手指の衛生が一番大事です」とおっしゃっていたことを、施設に戻り職員に伝達しました。

研修では、医師会の先生方の専門的な質問やご意見もお聞きでき、大変貴重な時間となりました。

新型コロナウイルス感染症病床で治療にあっている鈴木氏のお話は、現に西村山管内で起きていることではありましたが、その時の私には、まだ遠い所での出来事としか受け止めていなかったように思います。

しかし、その後まもなく、残念なことに当施設においてもクラスターが発生し、これまでの研修やシュミレーションの中で学んできた事を実践する時が突然訪れました。職員の行動についても厳しく自粛し徹底してきましたが、コロナ感染症の猛威は容赦なく、施設内に襲いかかってきました。

それからは研修でも指導いただいた、手指の衛生、防護具の正しい使用、ゾーニング等を徹底して実践し、その結果、短時間で収束を迎える事ができました。

振り返ってみますと、基本となる対応を全職員が理解し実践してきたことが速い収束に繋がったと思います。

今後もコロナ感染予防対策への取組は続きますが、研修でも指導があった基本的な対応を一人一人が確実に守り、業務にあたることを継続していきたいと思えます。

大雪となった研修当日、研修を企画して下さいった介護支援専門員協会村山地区支部の皆様には感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

(支部会員 片倉)



庄内地区支部

庄内地区支部では、令和3年10月13日(水)に秋田県介護支援専門員協会会長・社会福祉法人あけぼの会副理事長・株式会社あけぼのミライズ代表取締役、小原秀和氏より、「介護業界におけるテクノロジーの行方」をテーマにオンラインでご講演をいただき、20名の参加を頂きました。実践事例では居宅介護支援事業においてタブレット等を活用することをはじめ、ICTを推進するために必要な機器の環境を整備することや「業務効率化と生産性の向上」を図るために具体的に取り組むこと等をご講義いただきました。また、ソフトウェア業者よりICT機器の紹介動画を提供いただき、後日、動画で配信しております。

令和4年1月12日(水)には、一般社団法人あたご研究所、代表理事後藤佳苗氏より「実践力向上！ケアプラン作成の考え方とポイント」をテーマにオンラインご講演をいただき、40名の参加がありました。改定により根拠に基づいた「ケアプラン作成」を改めて学ぶ必要があると考え、月刊誌『ケアマネジャー』でケアプラン作成のポイント等についての連載や山形県の法定研修講師を務めている後藤佳苗氏へお願いしたものです。研修ではグループワークが積極的に行

われ、今後、研修内でスタンダードに活用できる方法を学ぶことができました。本研修では県内の地区支部会員の皆様からも参加していただきました。ご協力、本当にありがとうございました。



庄内地区支部が開催する今年度の研修は、いずれもオンラインで開催しましたが、研修を開催する役員、また、参加される会員の方も環境の整備や機器、アプリの操作を学び、研修に参加する必要性がありました。庄内地区支部では今後も状況の変化に対応できる準備を行い、適宜対応をしていきたいと考えております。皆さまと協力し進めていきますよう、今後どうぞよろしくお願いいたします。

(支部長 阿部)

最上地区支部

最上地区支部では、令和4年2月22日(火)に兵庫県でご活躍しております『訪問栄養ステーションえん』管理栄養士高橋瑞保氏を講師としてお招きし研修会を開催しました。41名のご参加をいただきました。

当支部は新庄最上薬剤師会、管理栄養士会などを中心に各専門職種団体と一緒に、現在モデル事業で地域NST事業を行っております。この度の研修の目的はもっと介護支援専門員の方にNSTとはなにかを知ってもらいたいとの一心で企画しました。講師の高橋先生からはNSTの基礎的なことや栄養の目をもつこと、口から食べることの重要性を事例をまじえてご講義いただきました。

高橋先生は以前県立中央病院、新庄病院などの山形県内での勤務経験もあり、受講された皆様も顔なじみの関係もあり、大変有意義な研修でした。

当初は新庄市のゆめりあ会場と金山町地域包括支援センターの二会場を講師の先生と結んでの集合研修を予定しておりましたが、新庄最上地域でのコロナウイルス感染症感染の爆発的な拡大もあったため、案内郵送後に急遽オンラインでの受講していただく形となりました。受講された方には急な方針転換で大変ご迷惑をおかけしました。

この度の研修会の反省点として、支部役員のオンライン研修の経験不足などが浮き彫りになりました。

コロナウイルス感染症は令和4年度も続くかと思えます。わたくしたち支部役員もコロナ禍の中、オンラインでの研修が標準化して実施できるように、日々レベルアップを図っていければと考えております。令和4年度もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(支部長 高橋)

山形地区支部

日時: 令和4年3月4日(金)

講師: 地域包括支援センター

センター長 大江祥子 氏

内容: スーパービジョンシリーズ

①「教えてスーパービジョン」

令和3年度第1回スキルアップセミナーが、令和4年3月4日(金)にZoomを利用して開催されました。山形地区支部ではスーパービジョンについてシリーズで学ぶことを企画し、今回が1回目の開催となりました。

スキルアップセミナーは少人数で講師の先生と受講者の対話型がコンセプトの研修会です。今回は11名の方が参加されました。少人数でもあり直接顔を合わせながらと予定しておりましたが、コロナ禍ということもあり、地区支部としては初のZoomでの開催となりました。第1回目ということで準備していた資料を基に、少人数ならではの意見交換等を行いながら、和気あいあいとした雰囲気での振り返り

やりや改めての気づきを得ながら、スーパービジョンの基本について学ぶことができ、とても有意義な研修となりました。

令和4年度は2回目以降を予定しており、計6回の研修会を計画しております。また、2回目に参加希望の方に第1回の様子をYouTubeを利用して内容の振り返りができるようにする予定です(詳細は2回目のお知らせの際にお伝えします)。その他、会員の皆さんの業務に役立ち、資質向上につながる研修を企画予定ですので是非ご参加ください。

(支部長 海藤)



事務所 移転の お知らせ

会員の皆さまへご通知しておりました事務所移転について、
移転・回線工事等すべて完了致しました。
連絡先等、下記の通りです。よろしくお願い致します。

- 新事務所住所 〒990-0037 山形県山形市八日町2丁目1-26
- 電話番号・FAX 電話 023-664-2120 080-6293-6735(携帯)
FAX 023-664-2130
- メールアドレス yacm@gc4.so-net.ne.jp
- 事務局職員体制 月・木 8時30分～12時30分 沼澤・佐藤
火・水・金 8時30分～11時30分 佐藤

わんコラム

はじめまして!

今回からコラムを担当する

ウェルシュコーギーの、もえです。

今回より新コーナーを企画しました。

萌もえの「わんコラム」が会員のみなさまの癒しのコーナーとなったら嬉しいわ。



感染予防は、手洗い・うがい
お鼻が隠れるようマスクを付けようね。
換気も大事よ。
ちなみに萌もえの後ろには空気清浄機!!
あとは・・・
ストレスためずに
よく食べ・よく動き
よく休むこと!



各専門職から

Professional Comment
プロフェッショナル・コメント

介護福祉士会

介護福祉士の専門性として、①介護過程の展開による根拠に基づいた介護実践、②環境の整備・多職種連携、③指導育成があげられます。②の多職種連携について、介護福祉士法における「連携」の規定では、「介護福祉士は、その業務を行うにあたっては、その担当する者に、認知症であること等の心身の状況その他の状況に応じて、福祉サービス等が総合的かつ適切に提供されるよう、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。」と規定されています。

私の職場は介護老人保健施設の認知症専門棟ですが、現場のケアワーカーたちは、施設ケアマネ、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等と常にコミュニケーションをとりながら、日々の業務を行っています。その中でも、施設ケアマネとの関りはとても重要です。

先日、当施設の施設ケアマネがこんな話をしてくれました。「施設ケアマネの役割は、現場の各職種が動きやすい土台を作ること、また居宅や家族とつなげることだと思っている。施設ケアマネの利用者への関りは間接的だが、日々利用者の生活に寄り添っているケアワーカーの細かい気づきはとても具体的で家族とも共有しやすい。」

ケアワーカーの強みは、利用者の日常生活の様子を知っていることです。利用者の生活場面に入り込み、そ

の人を側面から支え、普段の生活をよく知っているため、微妙な変化に気づくことができます。その気づきを誰かにつなぐことから、多職種連携による支援が始まります。

ケアワーカーの現場での気づきは、施設ケアマネが施設ケアプランを作成するうえでとても重要な情報です。その情報を基に作成された施設ケアプランは、利用者にはもちろん、現場のケアワーカーにとってもフィットしたものになるはずですが、ただ、当のケアワーカーは、施設ケアプランをあまり身近に感じていないという現実もあります。というのは、ケアプランに記載されていないサービスも提供しているため、そこまで必要性の高いものとは捉えられていないからです。

ケアプランは、利用者の生活の質の維持、向上のため必要不可欠なものです。その目的、作成までの流れ、ケアワーカーとしてそのケアプランとどう関わっていくべきかをしっかり理解することが、ケアプランを活かすことになります。施設ケアプランについて、互いに「教え」、「学ぶ」機会をつくることも施設ケアマネとの連携の一つといえるかもしれません。

(山形県介護福祉士会 高瀬)

編集後記

22年も春を迎えつつありますが、一昨年春からのコロナ渦は少しずつ形を変えつつも2年が経過しようとしています。今までの人生の中でも多くの体験と学びと多くの友との出会いがありました。川の流れのようにその時に合った価値観で生きていきたいと、また思いやりによって視床下部から出るオキシトシンでの最強免疫力で乗り切っていきたいと考えています。この世界に明るい未来が待っていることを切に祈っています。(星川)

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会誌

ケアマネ通信 やまがた No.36

発行日/令和4年5月

発行人/高橋 則好

発行所/一般社団法人 山形県介護支援専門員協会

〒990-0037 山形県山形市八日町2丁目1-26

TEL 023-664-2120 080-6293-6735 (携帯)

FAX 023-664-2130

E-mail : yacm@gc4.so-net.ne.jp

印刷・製本/田宮印刷株式会社

〒990-2251 山形市立谷川三丁目1410-1

TEL 023-686-6111 FAX 023-686-6114